分科会-４：協働

標語⑦様々な課題を共有して、ともに考え、助け合い、一緒に乗り越えよう

課　題

●小教区の現状の把握と協働体制の理解・深化
●福音宣教の活性化のため、教区、地区の役割の明確化と協働体制の推進
●教会施設（聖堂、信徒会館、司祭館など）維持のための互助

■宣教司牧の現状（状況、状態等）■

協働の観点で現状を分析する際、教区、地区の組織や役割、小教区および協働体制について、現状を把握し理解してもらう必要があります。

これからの教区全体を考えるとき、現在の状況に即した組織の整理が求められていると思います。また、教区の財務面（施設維持含む）の厳しい状況も含めて、教区民に理解してもらうことも必要です。

三つの地区は、宣教司牧活動の推進において、教区レベルの役割の一端を担う平和の使徒推進本部と連携を図り、教区と小教区をつなぐハブ（中継する機能を備えた地域の拠点）的役割の一端を担っていると思われます。地区宣教司牧評議会事務局などがその中心的な責務を担っています。

小教区の抱える問題や課題は、信徒の減少や教会離れ、少子高齢化と本当の様々です。課題への対応には、協働体制により互いの現状を把握して連携を深めていくことが大切です。

また、教区内の教会施設（聖堂、信徒会館、司祭館など）は、その敷地も含めて、修道会や宣教会からの資金援助を受けて建設されたものが少なくありませんが、近年、修道会や宣教会から教区へと移管されつつあります。

■現状の問題・課題■

教区全体の組織は、一般的な組織とは異なり、複雑な組織体を形成しています。また、教会法典で定められた役務者、部門や部署が存在します。これからの教区を見据えたとき、誰もが分かりやすく機能的なものに深める必要があると思われます。特に司祭の減少と高齢化、信徒の少子高齢化が、社会と同様に顕著にみられ、小教区も含めた教区全体で本来必要な役務に対して恒常的に人材が不足しています。

小教区の抱える大きな課題のひとつは、信徒の減少や教会離れ、高齢化です。信徒の減少から教会活動が困難になりつつあります。その減少する信徒によって、現存する教会施設を修理・営繕して維持するのが精一杯、あるいはそれさえ困難になりつつある教会が増えています。さらに財務面において一つの教会では、教

会施設の新築（聖堂、信徒会館、司祭館など）は厳しい状況です。

■提言■

教区全体の組織や機構については、すでに再構築に向けて準備がされているところもありますが、見直しが必要と思われます。

なお具体的な活動の経過については、教区・地区宣教司牧評議会を通じて教区民への理解を促す必要があります。

三つの地区では、各地区の状況が異なる為、地区の状況に応じて以下の事を重点的に推進してはどうか。

① 地区の役割について再確認し、地区間での情報の共有と、宣教司牧活動の推進の拠点としての活性化を図る。

② 地区の中心的な責務を担っている地区宣教司牧評議会事務局などの更なる活性化と小教区間・協働体制の連携を拡充する。

小教区の財務面において、現在、一つの教会が個別に貯蓄している施設の維持管理のための資金を、教区が責任をもって管理し、その資金を運用し、利回りを増やして教区全体として必要な教会施設の新築・維持・管理をおこなっていくための互助制度を創設してはどうか。

小教区では、次のことを実践してもらってはどうか。

①小教区（自分の教会）の現状を把握し、組織や様々な活動のあり方を学び、良い点や改善すべき点を分析し、分かち合い、これからの小教区（自分の教会）を考える。

②これから小教区を考えるため、まずワーキンググループを作り検討する。

③人材不足や財政難について、協働体制の中で補い合い、個人の持つタレント（能力）を引き出すような協働体制を築く。

④協働体制には、修道会、幼稚園、学校なども積極的に参画してもらう。

⑤小教区内に留まるのではなく、社会、地域に目を向け、また、多宗教との交わりを深め、互いの喜びを分かち合う。

⑥私たちが、互いの垣根を乗り越えて、まずは「伝える」一歩から実践する。

⑦司教教書 2018『2018 年度から導入される「協働体制」について』を、再度、読み、理解を深める。